

## 1月定例教育委員会議事録

- 1 日 時 平成26年1月21日(火) 午前9時30分から午後10時50分
- 2 場 所 宗像市役所本館3階・301会議室
- 3 出席委員 委員長 井上裕之  
委員 川上美子  
委員 平田良枝  
委員 中岡政剛  
教育長 久芳昭文
- 4 その他の出席者 教育部長高橋勇次、市民協働・環境部長福崎常喜、子ども部長柴田祐治、教育部理事後藤正弘、教育政策課長岡田光晴、教育政策課指導主事羽田野崇、教育政策課指導主事正路澄代、学校管理課長占部晃、子ども育成課長中野万由美、子ども育成課社会教育主事久保謙司、図書課長長谷川慎、文化・スポーツ推進課長磯部輝美、郷土文化交流課長清水比呂之、コミュニティ・市民協働課長古川博章、コミュニティ・市民協働課参事村上治彦、経営企画部世界遺産登録推進室長岩佐芳弘、教育政策課政策係長許斐知加、教育政策課教育連携コーディネーター田中雅子
- ※傍聴 なし

5 前回(12/20定例)議事録の承認(資料1)《承認》

### 6 議案

① 議案32号 宗像市社会教育委員設置条例の一部を改正する条例(案)について(資料2)

《承認》

【久芳教育長】 資料2参照。議事録なし。(▲29秒)

【コミュニティ・市民協働課長】 参考資料に記載させていただいていますが、「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」、いわゆる、第3次一括法ですけれども、こちらが、平成25年6月7日に成立いたしましたので、6月14日に交付ということになっております。この改正のなかで、地方自治体の条例や体制整備が必要なものにつきましては、平成26年4月1日から施行すると決められておりますので、今回、提案をさせていただくものです。今回の社会教育法の改正の内容をここに記載させていただいております。改正前を上の方の右側のほうに記載しておりますけれども、第15条の第2項に、「社会教育委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が委嘱する。」となっておりますが、こちらが改正になりまして、第2項の委員の構成の一部が削除になっております。その代わりではないのですけれども、18条で、改正後の下線部になりますけれども、委嘱の基準、定数及び任期その他社会教育委員に関し必要な事項は、当該地方公共団体の条例で定めるということで、委嘱の基準についても条例で定める必要が生じてまいりました。この場合においては、下の表に、文部科学省令を記載させていただいておりますので、社会教育委員の委嘱の基準を条例で定めるに当たって

参酌すべき基準として、先程、削除になった委嘱の基準が省令で定められているということになっております。

【平田委員】 現在、宗像市では、この社会教育委員の職務は、市民協働部が担っていると考えていいのですか。

【コミュニティ・協議会】 はい。社会教育委員につきましては、平成20年度に社会教育委員の会議等で協議が行われまして、当分の間、休止するということになっておりまして、今、市民参画等推進審議会が、その役割を代行し、社会教育委員としては休止ということになっております。

【平田委員】 ありがとうございます。それでは、社会教育主事は、今、子ども部の行事などに携わってくださっていますけれども、成人の部分に関しては、社会教育主事は今のところ関わっていないというか、社会教育主事はどういう立場になるのでしょうか。

【子ども部長】 宗像市の場合、この社会教育の分野が、独自の歩みを生んでいる状況があると思っております。この社会教育委員に関わる部分の審議事項は、今、参事が説明したとおりですが、宗像市の全体まで幅を広げると子どもの分野もあります。家庭教育の部分は、子ども部で多くは担当しているところもあります。少し幅を広げて体制を取っている状況があるのですが、今年度、配置されました社会教育主事の位置付けとしましては、教育委員会に、社会教育主事として任命され、市長部局への併任という位置付けで、子ども部、それから市民協働・環境部において、教育委員会の身分をもって、教育事業を担当していくということで行っております。社会教育主事は、実際の事業においても、子ども部のなかの所管業務もありますし、市民協働・環境部の社会教育的な事業にも若干関わりながら進めているところです。

【川上委員】 その社会教育委員の件に関してですが、国の法律がこの度改正されて、市で定めることがはっきりと、市の状況に合った状態で、社会教育委員を定められるような改正だと思うのです。それに伴って、今のところ宗像市自体は、それぞれの審議会が独立して専門性の高い審議をされているということで、社会教育委員の会としては休止ということだったのですが、今、社会教育主事が復帰されたことに伴って、宗像市全体を社会教育の観点から見るような社会教育委員の会を復帰しなくても、今のところまだ大丈夫なのでしょうか。そのあたりの今後の展望を含めてお聞きしたいのですが。

【教育部長】 以前、市民参画等推進審議会に、この考え方を委ねていくということです。宗像市としては、協働という考え方が前面に出てきた関係から、その中に、いわゆる生涯学習だとか、以前でいう社会教育があって、そこに身を委ねていこうという考え方で、この社会教育委員の会は休止をするということで進んでいたと思います。今回も、新宗像市の考え方としては、この市民参画等推進審議会での議論をしていただくという方向性は変わりませんが、法律が変わった以上、将来の社会情勢がどう変わるかわかりませんので、法改正に伴った条例改正には対応しておこうということでございます。今、その配下に社会教育主事がいるのではなく、教育委員会の配下として社会教育主事が活動すると。特に、子どもの育成関係には、社会教育主事が関わっていくという考え方でいっておりますので、この社会教育委員の会のなかに社会教育主事がいるというようには考えておりません。

【川上委員】 もう1点ですけれども、市民参画等推進審議会で、社会教育委員の県の連絡協議会には、参加するということがあったのですが、その状況が教育委員会にあがってこなくなりましたので、時々、教えていただけたらと思います。

【コミュニティ協議会】 はい、おっしゃるとおりです。社会教育委員の協議会の研修等には、市民参画等推進審議会の委員さんに参加してもらっていますし、当番幹事もさせていただいております。その報告が足りなかったもので、今後は、報告したいと思います。

【井上委員長】 そうですね。最低限でも出席されて、その状況をこの委員会には報告いただきたいと思いますので、よろしくをお願いします。他にございませんか。なければ、議案の第32号につきまして、承認いただけますか。

【各委員】 はい。

② 議案33号 平成27年度使用小学校教科用図書採択に係る教科用図書調査研究協議会委員の推薦について（資料3）

〈承認〉

【久芳教育長】 資料3参照。議事録なし。（▲38秒）

【教育政策課長】 福岡教育事務所から、平成27年度の使用小学校教科用図書採択に係る教科用図書調査研究協議会委員の推薦の依頼がっております。これにつきましては、調査研究協議会規約第4条におきまして、協議会は、管内市町村教育委員会の委員のうちから各市町1名をもって組織するとあり、そのほかに、推薦にあたっての留意事項が3点あります。1点目は、教育長を除く教育委員（委員長を含む）から選出すること。2点目が、採択が完了する平成26年8月31日まで在職していること。ただし、開示請求等の関係もございますので、27年3月31日まで在職していることが望ましい。3点目が、学識、経験等を考慮することということでございます。今回、27年度の教科書の採択に伴いまして、委員の推薦をお願いするものです。

【井上委員長】 この件に関しまして、何かご意見ご質問がございますか。それでは、私のほうから、提案をさせていただきます。中岡委員にお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

【各委員】 はい。

【井上委員長】 それでは、中岡委員、よろしくお願いいたします。議案の第33号につきましては、中岡委員を推薦するという事で承認いただけますか。

【各委員】 はい。

## 8 報告事項

### ① 行政報告（資料4）

【久芳教育長】 昨年の12月20日以降の行政報告でございますけれども、1月9日に、昨年7月から始まりました、宗像市の小中一貫教育推進協議会の第5回目の会議が開かれております。今回で最後の協議会ということで、最終的な答申が出来上がっております。この件につきましては、改めて教育委員会に報告をしていただくようにいたしております。それから、1月11日から13日までの3日間、むなかたの次世代リーダー養成塾が、グローバルアリーナで開催されました。本市の中学1、2年生30人を対象にしまして、JR九州のななつ星をデザインされた、水戸岡鋭治さんを始めとして、エコロジーで村おこしに取り組んでいる沢畑亨さん、日本の次世代リーダー養成塾7期生で、慶應義塾大学学生の久保田圭祐さん、日本の次世代リーダー養成塾事務局長の加藤暁子さんの講義がございました。子どもたちは、大変、感銘を受けたように、私自身感じております。また、今回のテーマは、宗像の魅力を発信しようということで、理想のお弁当をデザインすることに取り組んでおり

ます。最終日に、審査等、表彰式がございましたけれども、全員が入塾したときとは人が変わったように、積極的に発言がございました。わずか3日間という間で、目に見える成長の姿を見ることができました。デザインされましたお弁当もなかなかのものでして、非常にアイデアに富んだものが出来上がっております。3月29日に改めて全員が集まって、実際にお弁当を作り、水戸岡さんが、パッケージはデザインし、実際に販売しようというように夢が大きく広がっております。この事業は、宗像市の新市制10周年の事業として、位置づけて行いましたけれども、今回限りというのは非常にもったいないという思いがあります。今後も本市の特色ある取り組みとして、引き続き行うことができればと思っております。

② 後援報告(資料5) 議事録なし(▲3秒)

③ 平成25年度宗像市立小・中学校の具体的課題と指導の重点について(資料6)

【教育部理事】 具体的課題と指導の重点ということで、2学期までの総括になります。21世紀プランの実現に向け、毎年、あらかじめ、4月の段階で学校にお伝えして、それが、2学期までどうだったのかということ報告するものです。昨年度と同じように、それぞれの項目の終わりにオレンジのグラデーションが付いているところが、主要な項目でございます。その項目の具体的な中身が、ピンク色の背景になっている、細かな文章で表しているところだと捉えてください。7つ課題が大きくなるのですが、課題の5は、既に研修の評価をしておりますので、省かせていただきます。最初に、小中一貫教育の課題を中心に報告をさせていただきたいと思っております。小中一貫教育を通して何を充実させるかということ、大きくは学校経営です。小中一貫教育を推進していく立場になりますと、どうしても組織マネジメントの改革や充実が必要になってくる。ということで、組織マネジメントから、段々具体化して、カリキュラムマネジメント、それから、教師の指導力、学習指導力です。それと、生徒指導というように、段々具体化しているところで課題を示しているところなのですが、それでは、何が一番成果だったかということ、7ページを見ていただけますか。委員さん方、学校訪問をされて、ほぼ共通していることが子どもたちの学習規律、学習態度、これが向上してきたということで、これに異論はないだろうと思っております。まだまだ課題はございますが、伸びとしてはこれが一番気付くところです。それと、学力です。これが、各学校、堂々と小中一貫教育の成果として、学力が上がってきたということは、全体を通していえることで、やはり、学力の向上は、学校経営が充実していかないと伸びが見られませんので、非常に大きなポイントではなかったのかと思います。ただ、課題としては、もう少し組織マネジメントを充実させる。ミドルリーダーとか、サブリーダー、校長、そのラインがしっかり形成されていかないと、末端までいかないということです。そういったところできておりませんので、まだまだ不十分さを感じます。それを子どもの姿で、一貫している姿がなかなか見られないということが課題ですから、これをぜひ、授業の質にまで落として、来年度以降、重点化を図っていきたいと考えています。これが、課題1の小中一貫教育の簡単な総括になります。課題の2でございますが、国の基準であります学習指導要領では、6つ、プラスアルファ1で、7つの教育活動を充実させなさいとうたっているのです。それで、まずは言語活動なのです。これが、やはり大きい。それと宗像市の特徴からいうと6番目の外国語活動ですね。例えば、「英語を使える宗像の子ども」の具現化が、ここに関わるところになります。ICTでは、7番目の情報の活用、情報のモラルなどが当てはまるだろうと思っております。国の基準でございますので、

しっかりと意識して、学校経営の充実を図っていただくというところは、課題でございましたけれども、その総括を11ページ以降にしております。言語活動については、どの校区も頑張っていたいております。学力の向上にもつながっていますが、学力向上プランの作成はあるのだけれども、それが1つ1つの学級経営とか、授業になかなか反映していないというところがあると思います。ですから、より一層の言語活動の充実を図るといいたろうと思っています。まだまだ、小中の格差というのを感じますので。それと、先生方の授業力の格差も、まだまだあると思いますから、このあたりを中心に、来年度課題にしていきたいと思っています。次に課題の3ですが、人材育成という観点から、まず、教育論文、非常に応募が旺盛になってきたということがいえると思います。15ページに示しておりますけれども、ふくおか教育論文というのは、いわゆる県の論文です。この論文の応募が、昨年度3本だったのが、今年は12本と大きく増えていっています。論文の中には、実践記録と教育研究論文が2種類あって、教育研究論文は、仮説に基づいた論文を書くのですけれども、これは、授業づくりに直結しますので、この論文形式が14本から43本書ける、そういう教師が増えたということは、授業力や組織力、経営力が伸びていくチャンスだと思っていますので、この促進をより一層図っていきたくて考えています。人材育成でいえるところは、ここだと思っています。それから、課題の4でございますが、危機管理体制ということで、校長研修会や教頭研修会で、盛んにこの危機管理についての意識と体制の向上について働きかけておまして、学校もマニュアルを中心に整備が図られてきておりますので、一定の成果があったように思います。ただ課題は、いざというときに本当に動けるかということになります。本当にいざというときに動けるか、未然防止に日常的に心がけているかということだと思います。対応と未然の防止。この2本柱はこれから研修会がなくても、日常的に各学校に働きかけて、学校が意識できるように努めていきたいと考えています。課題の5は、先程、申し上げたように省きます。課題の6は、学校改善訪問です。学校改善訪問は、毎年学校を訪問するというので、3年間で終了しました。これは、相当効果がありまして、行くことによって刺激を与え、作らなくていい資料まで作っていただくような、相当力を入れていただき、節目になってきたと思っています。3年目でございますので、今後どうしていくかということについては、改善も含めて、検討していくべきではないかと思っていますので、ご意見を賜ればと思っています。それから、課題の7でございますが、福岡教育大学との連携がありました。本年度から、教育連携コーディネーターを設置し、連携総合プランを策定することができました。6つの観点から連携の内容が明らかにされ、1つの整理されたかたちになってきたと思います。これを基盤にしてより連携を深めていくというのが、これからの課題だと思っています。とりわけ、共同研究プロジェクトにつきましては、24ページにお示しをしておりますように、来年は、特別支援教育、ICT、外国語、この3つの大きな柱にモデル校を設置しながら進め、各学校に広めていくという、大きな役割が今後出てくると思っています。福岡教育大学に関わらず、市内に持っている教育財産をいろいろな連携を図って、子どもたちのためになり、学校経営の充実になるというところを、今後、努めていきたいと考えております。その他の課題でございますが、土曜日授業とか学校の日のこととか、簡単に26ページにお示しをしております。何といたっても土曜日授業ですね。これは本年度、3回から6回という、少しまばらでございますが3回以上確保しておりますし、この質とか回数もう落とさないで、どんどん伸ばしてやって欲しいということを各中学校区にお願いをしておりますので、来年度、注目すべきところではないかと思っています。

【井上委員長】 大変、詳細な報告、そして、非常に見やすいかたちで整理していただきました。

この件に関しまして、何かご意見ご質問がございましたらお願いします。私から、少しお聞きしたいところがあるのですけれども、22ページ。学校訪問のところなのですが、ここで福岡教育事務所による訪問を今、3年に1回のローテーションでやっておりますけれども、それを5年に1回と書いてあります。これは、宗像市教育委員会だけで決めるわけにはいかないと思うので、福岡教育事務所との関わりがありますよね。そのあたりはいかがでしょう。

【久芳教育長】 これは最近、新任校長が今後増える傾向があり、福岡教育事務所が定期的に行うものについては少し減らし、全体的に調整するという話になっています。

【井上委員長】 了解しました。その他、何かございますか。よろしいですか。

④ 平成26年度宗像市小・中学校「宗像市子ども基本条例」に基づく取り組みについて(資料7)

【社会教育主事】 来年度より、宗像市内の全小中学校に実施していただく、「宗像市子ども基本条例」に基づく取り組みについて、実施要綱を作成しましたので、その内容について報告いたします。この実施要綱につきましては、周知を図るために宗像市研修事業計画に記載をし、また、今年度の校長会などでも趣旨を説明して、ご理解いただけるように努めていきたいと考えております。その他議事録なし。(▲2分8秒)

⑤ 海洋性スポーツ拠点整備の進捗について(資料8)

【文化・スポーツ推進課】 海洋性スポーツの具体的な取り組みにつきましては、昨年、基本指針をご報告させていただいております。当初、艇庫が中心となる施設を整備するようにはいたしており、これを宗像市の民有地を利用するというので、福津市とずっと協議を進めてきておりました。今回、最終的に勝浦漁港内を利用して艇庫を整備するというように変更になりましたので、そのご報告をさせていただいております。これによりまして、福津市でこの艇庫の設置条例を制定いたしまして、宗像市は、ここに掛かる経費等を負担金として払う対応になります。平成26年度に実施設計及び建物の建築を行いまして、平成27年度からオープンするよう取り組みを進めてまいります。

【井上委員長】 これは、変更になった理由は何でしょうか。

【文化・スポーツ推進課】 当初、施設所有者と地主の方も協議が整い、9月補正で用地買収の予算を計上いたしておりましたが、地主の方が、別の民間業者に用地を売られ、最終的には、漁港内で対応ができるという見通しが立ちましたので、資料の場所に整備することになりました。ですから、用地買収費がいらなくなります。3,300万ほど、経費が減額にはなっております。

【川上委員】 当初の予定の敷地面積に比べると、はるかに小さくなっていると思うのですけれども、その分、施設の規模とか内容とかは縮小になるのでしょうか。

【文化・スポーツ推進課】 艇庫自体を確保する面積だけは、十分ございます。当初の土地は、駐車場まで十分確保できたのですが、これができるので、漁港用地を使うことで対応します。

⑥ 宗像地区教育実践研究表彰式及び宗像市教育センター研究員・福津市教育研究所員合同研究発表会要項について(資料9)

【正路指導主事】 資料9参照。議事録なし。(▲1分46秒)

⑦ 平成25年度宗像市小中一貫教育スピーチコンテストの開催について（資料10）

【正路指導主事】 スピーチコンテストの最終審査会を今年度も行います。今年度の特徴として、最終審査、小学生の部、中学生の部の合間に特別出演を設けております。今のところ確定しているのが、河東小学校の子どもたちによる小学生のイングリッシュパフォーマンス。それから、中学生の部では、日の里中、城山中学校の中学生が日本語のスピーチを行うということで、特別出演を含めております。また、講評につきましては、ALT配置事業のなかからALTの講評、それから、審査員には福岡教育大学の英語教育講座の教授、お3方をお呼びして審査をする予定でございます。また、来賓として、市長、3大学の学長様もお呼びしているところで、昨年よりかなり規模の大きなコンテストになると考えます。その他議事録なし。（▲25秒）

【井上委員長】 何か、この件に関してよろしいですか。成功を祈るばかりですね。

⑧ 全国調べる学習コンクール審査結果について（当日配布資料）

【図書課長】 第8回の宗像市図書館を使った調べる学習コンクールで入賞しました、市長賞、教育委員長賞、教育長賞などの15点の作品を全国大会に応募させていただいております。総数52、181作品出ておりますが、1月15日にインターネット上で応募結果が発表されましたので、ご報告いたします。お手元の資料でございますように、入賞1名、それから、奨励賞が2名ということで受賞しておりますが、学校図書館はもちろん、市民図書館も調べる学習何でも相談室等を開催して支援させていただいた結果だと思っております。特に、優秀賞につきましては、全国26作品のうちの1名で、なおかつ、受賞者の福井悠月さんは、昨年度に引き続き、連続の受賞ということでございます。3月8日には、東京で行われます表彰式に招待をされているということでございますので、市としましては、この結果につきまして、広報等でご報告をし、このコンクールにつきましては、来年度も実施されますので、宗像市の調べる学習コンクールについても多数の応募をまたお願いして、来年も取り組んでいきたいと考えております。

【井上委員長】 連続でこの全国賞の優秀賞とは、やはりすごいですね。後に続くものが、かなり勇気づけられるのではないかと思います。ぜひ、来年もお願いします。

⑨ 福岡教育大学との連携事業について（資料11）

【教務コーディネーター】 68ページです。これは、伊藤克治先生による出前授業の報告です。大島の小中学校の生徒全員50名と、地域、教員、含めてのなかで、科学のふしぎな世界 in 大島というテーマで昨年度から行われ、今年度が2回目となりました。伊藤先生の講義の他に、1番から7番までの実験を子どもたちは全て体験していきます。小学校での実験が、中学校での学習に活かせるよう、小学校1年生でもわかるように体験をさせていく出前授業でした。私と教育長で参加させていただきました。69ページと70ページにつきましては、1月11日、12日に日本生物教育学会にて、教育大学の西野先生が発表した際の資料をいただきましたのでご紹介をしておきます。今年度、生物の授業を自由ヶ丘南小学校で実践したときのもので、子どもたちの変容や学力の向上について、また、ファストプランツが、どんなに有効的に授業に活かされたかを報告をされているということです。71ページは、プロジェクトの中の特別支援部会が、2月14日に東京大学准教授の近藤武夫先生をお招きしての講演会のご紹介です。宗像市、福津市の先生方に参加を募り、現在40名ほどの参加があります。「学習へのテクノロジー利用と合理的配慮」ということで、通常の学級にいる特別な配慮を要する

子どもたちを、教師はどう扱ったらいいのか、どのように指導したらいいのか、大人も含め、どうその人に接し、その人の良さを伸ばしていけばいいのかということを学んでいく講演会になっております。ICT機器を使うことも大事ですし、どのような会話で、どのようにその人を引き出せばいいのかというような話を、大変若い先生なのですが、わかりやすく説明をしてくれます。私と正路指導主事は、8月に一度、この先生の講義を教職大学院でお聞きしているのですが、大変惚れ込みまして、無理やりに来ていただくことが実現しております。もし、ご希望の方がありましたら、時間さえ合えば、どうぞご参加いただければありがたいです。

【教育部理事】 続いて、67ページの資料11に戻ります。来年度の方向について、簡単にお知らせをしたいと思っています。ご存知のように、今年度は自由ヶ丘南小学校で理科を行って、成績も上がったということで、素晴らしい報告がありましたので、引き続き、自由ヶ丘南小学校は、共同の研究プロジェクトの範囲にはならないのですが、継続的に大学の先生方と繋がりを求めていくことにしております。新しく赤間小学校を外国語活動で繋げていきたいと思っています。今までは、河東小学校が中心に外国語活動を充実させたのですが、もう1校増やしたいという気持ちがあります。それによって、宗像市全体、小学校段階からの外国語活動を充実させて中学校に繋げていきたい。小中一貫教育の柱にしたい、特色にしたいという気持ちがありますので、赤間小学校を来年度から進めていきます。今は準備をしております。それから、ICTですが、これも順調に河東西小学校、玄海中学校で進めておりますので、引き続き、継続を図って広げていきたいと考えています。当然、ICTは電子黒板の配置の状況もありますので、すべての学校が充実できる働きかけも当然してまいります。ただ、情報発信としては、福岡教育大学との連携のなかでこの2つの学校から出てくる内容というのは、大変深いものであり、役に立つものであると思いますので、情報発信に心掛けたいと思っています。あと1つは、特別支援教育なのですが、通級教室を持っている自由ヶ丘小学校と中央中学校に、モデル校として核になってもらいたいと思っています。このあたりが本年度と違うところがございます。このあたりを充実させていくと、もっと研究プロジェクトが進化していくことを考えております。併せて、福岡教育大学の連携ですが、ぜひ、現職の教員の研修の場として福岡教育大学に行かせて、例えば、学長さんのお話を聞くとか、大学の先生のお話を聞くとかいうそういう取り組みも、来年度研修会を大学に求めていくということも考えておりますし、本市が持つ宗像市教育センターの研究員、この研究員の研修の場もいくつか福岡教育大学に求めて、連携をより強固にしていきたいと考えております。

#### ⑩ その他

・第21回(平成25年度)宗像市少年少女海外派遣研修使節団報告書及び「MY REPORT」について

【子ども育成課長】 本日、第21回宗像市少年少女海外派遣研修使節団報告書と「MY REPORT」が完成しましたのでお配りしております。報告書では、団員感想文、スタッフメッセージ、事後アンケート結果等を掲載しております。「MY REPORT」は、15人の団員が、事前にそれぞれが決めた個人テーマをもとに、団員自身がニュージーランドで調べた内容をまとめたものでございます。事後アンケートの結果からも「この研修をきっかけに、外国に興味を持つようになった」、「自分に積極性が出てきた」など、自分の生活や外国に関する考え方に変化があったと多くの団員が回答しており、次世代のリーダーを育成するという事業の目的が達成されたと考えております。



【井上委員長】 今日初めて見ましたけれども、報告書は今まで以上に印刷がいいですね。このへんは、工夫はあったのでしょうか。以前は、写真があまり良くなかったように記憶しておりますが、今回、非常にきれいに見やすく。それで、1つ私からもお願いしたいのですが、かなり回を重ねてきているのですが、このレポートは、図書館のなかに展示などはしてもらっていますか。

【子ども育成課長】 はい。毎年、図書館にも置かせていただいております。それから小中学校にも、配布をさせていただいております。

【井上委員長】 図書館で、一般の方にも、ぜひレポートを見ていただきたいのですよね。非常に宗像市がいい事業をしているということが浸透していくと思いますのでよろしくお願いたします。

#### ・むなかたの次世代リーダー養成塾実施報告

【ポエティ・關謙蔵】 当日資料、むなかたの次世代リーダー養成塾報告書A 4裏表を配布しております。先程、教育長から、行政報告のなかで概要は報告があったのですが、資料を使いまして補足の報告させていただきます。参加者は、各中学校から応募いただき、30名を選ばせていただきまして、一覧表のとおりとなっております。クラス担任ということで、市の職員5名が参加いたしまして、各中学生のグループと寝食を共にして、3日間いろいろなお話をし、アドバイスをを行うということでやっております。アドバイザー協力ということで、久保社会教育主事も側面から支援をしていただき、ほとんど夜遅くまで子どもたちに付き合っていて、大変感謝しているところでございます。塾のカリキュラムとしては、水戸岡先生ら4名の講師の方から講演していただきまして、特に、水戸岡先生については、デザインという部分のいわゆる子どもたちに「みんなが使っているものは、すべて誰かがデザインしたものなんだよ」と。「だから、デザインというのを今から意識しようね」といった話とか、これまでの実績といたしますか、工業デザイナーで、列車のデザインからななつ星の話も当然ございましたし、博多駅とか、他の駅もデザインもされていますので、その内容をわかりやすく説明をしていただきました。後半はあらかじめ生徒たちに、宗像を発信するお弁当というテーマで宿題を出して、持ってきたものについて、それぞれの班で発表をさせ、それに対するアドバイスをしていたりするような、ワークショップもしていただきました。2日目を中心なのですが、グループワークで、「宗像の魅力を発信するお弁当デザイン」を作成するという目標がございましたので、これをするための情報を収集するために、宗像大社とか、道の駅むなかた、要は食材のお勉強の調査に行ってもらいました。観光協会の方とか、漁協の方とか、農協の方とか、食進会の方とか、そういう方たちにアドバイスをするゲストになってもらい、そういうお話を聞くとかいかたちのヒアリングをして、いろいろな情報を集める作業をしております。それで、3日目、最終日はプレゼン発表ということで、午前中かけてプレゼン資料を作りまして、午後発表がありました。審査についても、久芳教育長も入られて審査をしていただきまして、非常に助かっております。それで、お弁当のテーマですが、1組：「国宝級のお弁当～地元から世界へ」、2組：「恋のななつ星弁当」、3組：「三女神弁当」、4組：「親から子への贈り物 in 宗像」、5組：「天然フグの贅沢弁当」と、それぞれ班でいろいろなテーマでデザインをされて、これの詳細については、今日資料は準備をしておりますが、最終的には4組の「親から子への贈り物 in 宗像」が優秀賞に選ばれました。これはたくさんの宗像の具材を使って、宗像の食材をいろいろ探求するという視点が評価されたものです。今、生徒たち参加者のアンケート調査などの事業報告の整理を行っている最中でございます。本日は、速報というかたちでご報告させていただきます、今後、報告書なり、ホームページなりで、できるだけ広くみなさんに紹介、情報発信す

る予定です。

【井上委員長】 なかなか好評とお見受けしましたので、なるべく単年度で終わらないで、継続できるような方向にもって行って欲しいと思います。

・海の道むなかた館正月イベント報告について

【郷土文化交流課長】 正月三ヶ日がかなり暖かくて、そして天気良かったということと、若干懸念されていたのが、海の道むなかた館の前の工事の関係がありまして、どのくらいの入館者が入るかという心配はありましたが、3日間のトータルで4,700名の方が入館をされております。前年度が約5,000人でしたので、ほぼ同様の状況ではないかと考えております。来館アンケートを実施しておりまして、130名の方からアンケートをいただきました。入館者の内訳でいきますと、40代、60代、小学生がかなりの入館者のウエイトを占めているという状況でした。また、宗像市内市外の比率ですけれども、宗像市内が約50%、市外の方が50%です。どうかたちでこの館に入館したかという、大社の前で、チラシ、ウェットティッシュを配布したり、きりり姫で呼び込みをしたりした関係から、大社から案内されたという方が約2分の1を占めております。参拝者に対するアピールが、有効だったのではないかと考えております。それと、特に人気があったのが、「日本の凧展」で、去年の暮れから2月9日にかけて、約130点の日本のいろいろな地域の凧展をしておりました。あとやはり、振る舞い関係ですね。「おしるこ」とか、「だぶ汁」、そういったものもかなり人気がありました。また正月ならではの獅子舞のイベントも人気があったのではないかと考えております。併せまして、「クラシックカメラ展」は、10月9日から1月17日まで行っており、トータル約400点近くのカメラを展示したのですけれども、2,600人の方が熱心に見られたという状況になっております。それと、正月イベントを少し外しておりますが、今回、福岡県の小学児童画展、これは、福岡県小学児童画展の県の入選となった作品200点、宗像地区の分ですけれども、これを展示しておりました。これは1月7日から、今月の19日で終了しておりますけれども、約1,000名の方が、実際に来られて、自分のお子さんの作品ということなので、家族で来られているような状況がかなり見られ、非常に有効だったのではないかと考えております。それと、先程からお話がいろいろ出ております、福岡教育大学との連携事業ということで、本日からなのですけれども、今お手元にチラシがございます、宗像市・レッジョエミリア市（イタリア）交流児童画展を開催しております。本日から1月31日、約10日間ですけれども、海の道むなかた館で実施をしております。実は、レッジョエミリアというのは、イタリア、世界的に非常に有名な幼児教育が行われており、そのリバルタ小学校というところから約70点の作品が展示をされております。それと、交流児童画展ということで、市内の赤間西小学校、玄海東小学校、それから、自由ヶ丘南小学校から30点の作品と一緒に展示されています。福岡教育大学の美術教育講座の松久先生が中心にされており、非常に興味深い展示になっています。正月からいろいろイベントも含めて、盛りだくさんにやっておりますので、ぜひ、このレッジョエミリア市の交流児童画展は見に来ていただければと思います。

・宗像の民話講座・発表会について

【図書課長】 海の道むなかた館と連携しまして、故郷（ふるさと）の歴史と民話を学んで、伝承していくための学習を常に行っておりますが、そのなかで、2月1日に、海の道むなかた館の講義室において発表会を開催させていただきます。4項目、特に、猫塚物語につきましては、宮若に講座

生が出向いたり、それから、宗像市内の寺院等にいろいろなお話を聞きに行ったりして、非常に勉強しております。講座生の皆さんが、宗像が好きでたまらないと、より好きになっていただきたいと考えておりますので、ぜひともお誘い合わせの上、参加していただければと思います。

・世界遺産暫定リスト記載資産「宗像・沖ノ島と関連遺産群」パネル展・公開講座のお知らせ

【世界遺産登録推進室長】 2月11日から16日の間、九州国立博物館におきまして、世界遺産「宗像・沖ノ島と関連遺産群」のパネル展及び2月14日には公開講座を計画しております。表には書いておりますけれども、九州国立博物館におきまして、特別展ということで、「国宝大神社展」で沖ノ島出土の金銅製龍頭が2月11日から23日に展示されます。それに合わせまして、PRさせていただきます。裏面を見ていただきたいのですが、九州国立博物館のエントランスホールにおきまして、パネルの展示、勾玉作り、沖ノ島の3D映像の紹介やDVDの上映等を計画しております。いずれも入場無料でございますし、勾玉作りも無料で体験していただくようになっています。この期間中、九州国立博物館では、「国宝大神社展」が1月15日から3月9日、また、トピック展示といたしまして、文化交流展示室では、1月1日から2月16日まで大島の御嶽山遺跡の出土品の展示、同じく文化交流室で平常展示ではございますが、「海の正倉院～沖ノ島～」の展示コーナーということで、沖ノ島祭祀遺跡の出土品の展示等もされておりますので、併せて多くの方に来ていただこうと思っております。なお、2月14日ですが、九州国立博物館内にあります、ミュージアムホールにおきまして、午後1時半から3時半まで海の道むなかた館の館長であります、西谷正館長によります「宗像・沖ノ島と関連遺産群の魅力ーまつりのはじまり、まつりのひろがりー」と題し公開講座を予定しております。あと、3つほどお知らせでございますが、市役所の他の部署との連携事業でございます。1つは、遠賀信用金庫が世界遺産応援定期ということを一月31日までさせていただきます。この遠賀信用金庫の定期預金の預入額総額の0.005%相当を世界遺産の登録活動資金といたしまして、県、宗像市、福津市とで組織しております、世界遺産推進会議に寄付をしていただくというものです。あと1つが、麒麟ビールにて、麒麟1番搾りのラベルに、「宗像に世界遺産を！」と銘打って、2月5日から福岡県内で販売していただけることになっています。現在、350mlの6缶パックの4パックで1ケースとなっておりますけれども、5,400ケースが、今、販売されるということで、注文がもうきているということでございます。皆さんも、もし、よろしければ、この1番搾りを飲んでいただけたらと思います。今回の麒麟ビールさんのご協力というのは、宗像で麦を作っているのですが、それが麒麟ビールさんで使われているということでございますので、応援したいということで、今回、実現しています。あと、水産振興課、商工観光課との連携事業なのですが、1月20日から2月末まで、JR博多シティの9階、10階に「くうてん」という飲食店街がございますけれども、このなかで、「冬旬・宗像グルメフェア」が開催される予定になっております。これは、宗像での食材、ふぐ、わかめ、あかもく等を使ったメニューをこの飲食店街47店あるのですが、そのなかの17店舗で宗像の食材を使ったメニューを出していただくというものです。その17店の店舗のなかに四角のポップをテーブルに置いていただいて、そのなかで「宗像・沖ノ島と関連遺産群」のPRをさせていただきます。また、10階のエレベーター前では、土日に関しましては、世界遺産に係るDVDの放映をさせていただきますし、JRシティ2階のエレベーター広場前には、世界遺産「宗像・沖ノ島と関連遺産群」に関するパネル展等を1月25日から2月23日まで予定しているところでございます。もう1点、東京のほうでも「鐘崎天然とらふぐフェア」ということで、2月

の5、6、7、東京丸の内の東京ビルディング7階で、「野のぶどう」というショップで「ふぐフェア」が行われます。このなかでは、VIP関係のご招待とか、一般の方も来ていただくようになっているのですが、この会場のなかで、宗像・沖ノ島と関連遺産群に関するパネル等の展示等やパンフレットの配布を今考えているところでございます。最後に、RKBから情報提供が年末にありましたので、12月の定例教育委員会でご報告できなかつたのですが、先週の土曜日の夜9時からTBS系RKB「世界ふしぎ発見」で、沖ノ島の放映がされております。私どもが進めております世界遺産登録の沖ノ島の貴重な価値というのが、この放送のなかでは十分取り組まれて放映されたのではないかと考えております。この放映後、宗像大社神宝館、翌日の日曜日には、300人の来館があったということで、これはTBSでございますが、全国ネット放送されておりますので、認知度が上がったのではと考えております。それと、正式には2月の定例教育委員会でお知らせできたらと思っているのですが、3月8日の土曜日、午後、まだ、はっきりと時間は確定しておりませんが、2時くらいになると思いますが、写真集の「神の島・沖ノ島」ということで、写真家の藤原新也さんと、直木賞作家の安部龍太郎さんが出された写真集がございますが、このお2人による講演会を現在計画中でございます。正式に決まりましたら、定例教育委員会でお知らせさせていただきたいと思っております。

【井上委員長】 何か、話を聞いていると、もう世界遺産が実現するような気持ちになってきましたね。それだけ、PRが行き届き、私も、今年は年賀状の沖ノ島の記念の年賀状を協力させていただきました。

【世界遺産登録推進室長】 年賀状も1万枚予定しておりましたが、結果的にはオーダーが多くて、頑張って2万枚、予算のある範囲で印刷して販売をさせていただいたもので、ありがとうございました。

【井上委員長】 よろしいでしょうか。その他、ございますか。なければ、終了させていただきます。次回の開催予定日は、平成26年1月22日午後4時30分から第2委員会室にて開催します。本日は長時間、誠にありがとうございました。

平成26年2月20日

井上裕之

中岡政剛